

## 「リハ工学カンファレンス」に参加して

日本リハビリテーション工学協会主催による第12回リハ工学カンファレンスが、平成9年8月27日（水）～29日（金）の3日間、長崎県佐世保市西海パールシーセンターにおいて開催された。当会場は長崎空港から90分、JR博多駅より105分と遠隔の地にあるにもかかわらず、参加者は例年を上回る490名が集まった。

このカンファレンスへの主な参加者は、全国の理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、福祉機器等製造・販売業者、リハエンジニア、医師等で、毎年1回一同がカンファレンス開催地に集い、1年間に行ったそれぞれの研究・開発の成果、福祉機器の使用事例報告等を行い、互いに情報提供を行うと共に、研究に関する議論を行っている。さらに、福祉産業以外からも、高齢化社会における福祉分野での事業展開を図る上で、利用可能な情報収集のために多く参加されている。

カンファレンスの一般演題におけるセッションは、車いす、姿勢保持、移乗、移動・交通、コミュニケーション、コンピューター、スポーツ、義肢装具、環境制御、遊具・点字、動作分析、介助機器、住宅、自助具、計測評価、ADL、社会制度、自立と技術支援、職業の19種類で、発表演題数は125件であった。その他、

ハイライトセッションと題した演題の中では10のSIG（Special Interest Groupの略）の概要紹介、活動状況等の報告が行われた。

技術研究所も、「身体障害児用乗り物の試作開発」と題して演題発表を行い、障害児教育、介護に携わる方々へ情報提供、並びに意見交換を図り、交流を深めることができた。このカンファレンスの特徴は、1日の全セッション終了後、5時30分より各セッションの座長、演者を囲んだ、一般参加者との自由討論の場がイブニングセッションとして設けられていることである。このセッションの中では、演者の研究に関する詳細な説明が聞け、現場における生の情報を入手することが可能である。

一方、カンファレンス開催日の前後に、SIG主催の講習会、研修会が開催された。ここには約120名の参加者があり、特に車いすに興味を持った人達が参加し、各講師の講演を真剣に聞き入っていた。講習会後に催された懇親会では、日頃職場で疑問に思った車いすに関する事をSIGの専門家達と議論し合い、互いの交流を深めていた。

次のリハ工学カンファレンスは、'98年8月に岐阜県大垣市で開催される予定である。



写真 カンファレンス会場



写真 発表状況